

令和7年6月

令和7年	4月	～	6月期	実績
令和7年	7月	～	9月期	見通し

# 中小企業景況調査報告書

岩手県商工会連合会

主要景況項目の動き	2
業況天気図	3
全産業の推移	4
製造業の推移	7
建設業の推移	11
小売業の推移	15
サービス業の推移	19
全産業の過去データの推移 * 平成15年1月以降	23
[集計資料]	

## D・Iとは

D・Iとは、ディフュージョン・インデックスの略です。これは、企業経営者の景気動向を表す指標として利用されています。

算出方法は、増加（上昇・好転）企業割合から減少（低下・悪化）企業割合を差し引いたものです。

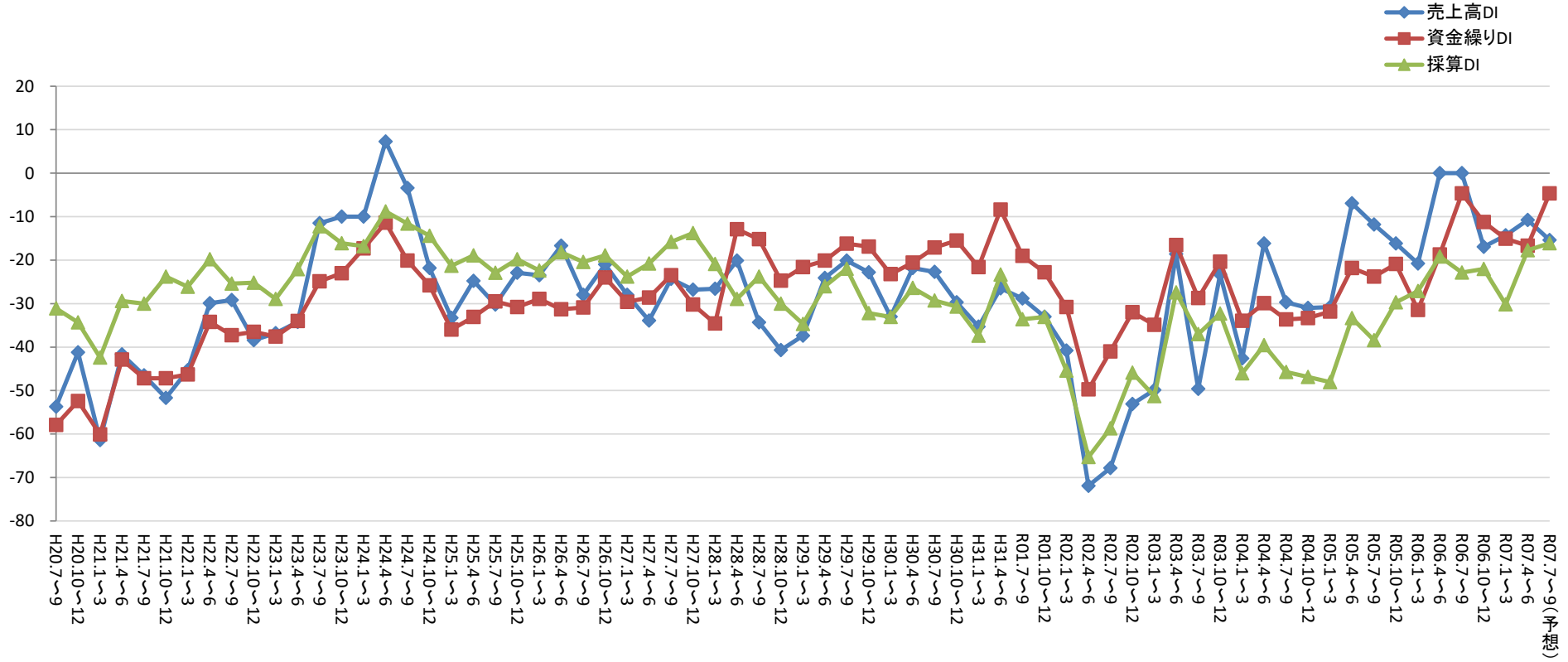
D・Iがプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）、原材料または商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

プラス、マイナス同数の場合はD・Iはゼロになります。





































たとえば、売上高増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合、D・Iは $50 - 20 = 30$ となり、全体として経営者の売上高に対する強気の度合いを表しています。






[岩手県 産業全体]

### 主要景況項目の動き —前年同期比—



# 業況天気図

業種	令和5年		令和6年		令和7年		(今期)	(見通し)	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	4~6月	7~9月	
製造業	 雨	 曇	 曇	 薄曇	 薄曇	 曇	 薄曇	 薄曇	 薄曇
建設業	 雨	 曇	 曇	 晴	 薄曇	 曇	 曇	 雨	 曇
小売業	 薄曇	 雨	 雨	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇	 曇
サービス業	 晴	 薄曇	 曇	 薄曇	 薄曇	 薄曇	 曇	 薄曇	 薄曇

売上高DI	100.0 ~30.1	30.0 ~10.1	10.0 ~△10.0	△10.1 ~△30.0	△30.1 ~△100.0
表示	 快晴	 晴	 薄曇	 曇	 雨

# 全産業の推移

## 売上高

**サービスの売上高D・Iが改善  
小売業は2期連続の悪化**

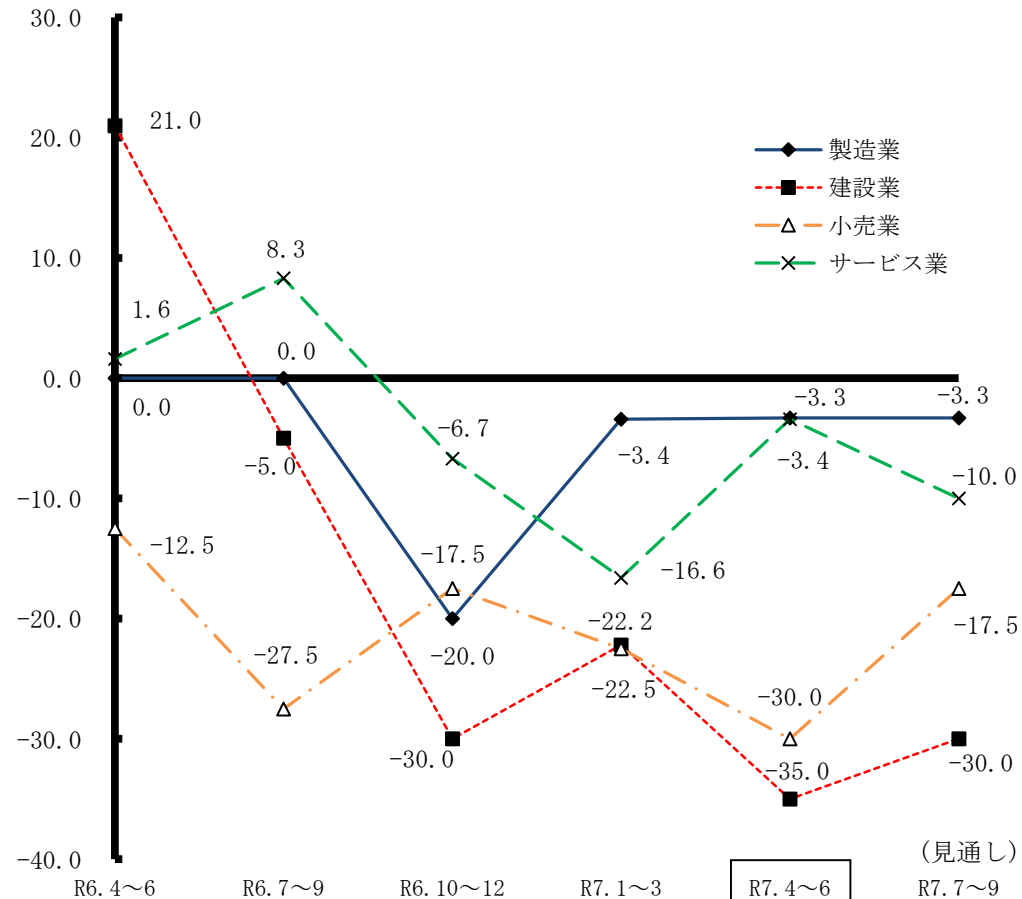
今期の売上高D・Iは、サービス業が改善となりましたが、建設業が悪化に転じ、小売業は2期連続の悪化となりました。

前期大幅に悪化していたサービス業は改善に転じてマイナス幅を大きく縮小、他方、小売業は2期連続しての悪化、前期回復していた建設業も悪化に転じています。製造業は前期と横ばいとなりました。

サービス業は13.2ポイントの増加によりより△3.4まで上昇、小売業は7.5ポイントの減少により△30.0まで低下、建設業は12.8ポイントの減少により△35.0まで低下してマイナス幅を拡大しています。製造業は前期とほぼ横ばいにとどまり、△3.3となっています。

来期は、今期悪化した小売業と建設業が上昇となるものの、サービス業は悪化に転じ、製造業は今期と横ばいにとどまる見通しとなっています。

※建設業の売上高は完成工事高



# 全産業の推移

## 採算

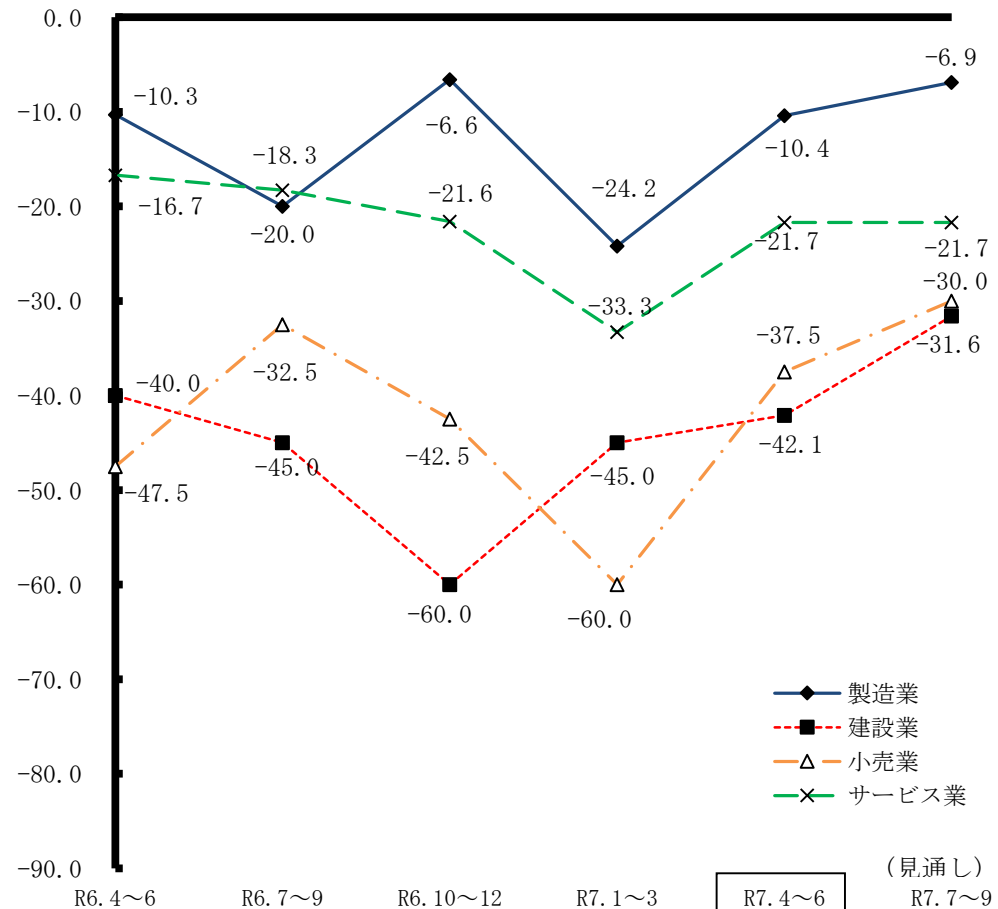
**全業種において採算D・Iが改善  
小売業は二桁台の大幅改善**

今期の採算D・Iは、全業種が改善となりました。2期連続して悪化していた小売業が上昇に転じて大幅に改善、建設業は2期連続の改善、製造業、サービス業も改善に転じています。

前期まで2期連続して大きく低下していた小売業が22.5ポイントの大幅な増加により△37.5まで上昇、前期悪化していた製造業は改善に転じ、13.8ポイント増加して△10.4まで上昇、3期連続して悪化していたサービス業は改善に転じて11.6ポイントの増加により△21.7まで上昇しました。建設業は2期連続の改善となり△42.1まで上昇してマイナス幅を縮小しています。

来期は、サービス業が今期と横ばいにとどまるものの、製造業、サービス業、小売業の3業種は今期に引き続き改善することが見込まれています。

※採算は各業種とも経常利益



# 全産業の推移

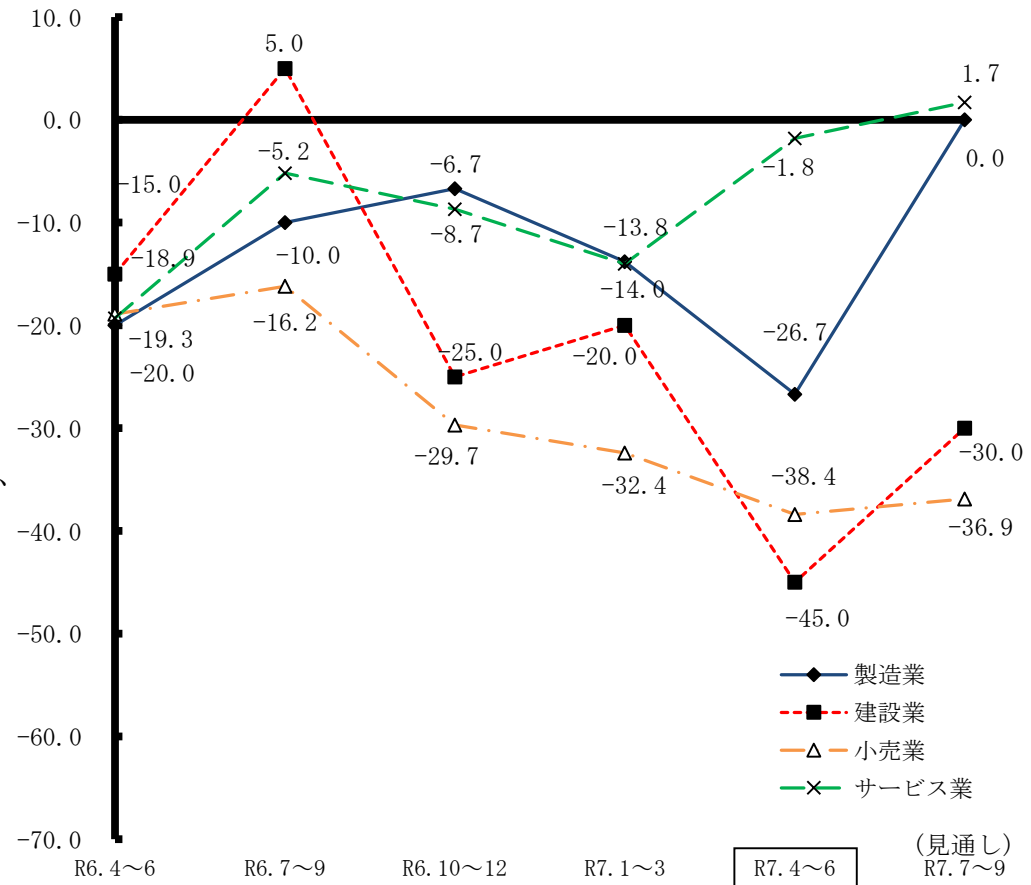
## 資金繰り

サービス業の資金繰りが改善  
小売業は3期連続の悪化

前期まで悪化していたサービス業において資金繰りD・Iが改善したものの、改善傾向にあった建設業が大幅な悪化に転じ、製造業は2期連続の悪化、小売業は3期連続の悪化となりました。

前期まで2期連続して悪化していたサービス業が二桁の増加により△1.8まで上昇、他方、製造業は前期に続いて悪化し、12.9ポイント減少して△26.7まで低下、小売業は3期連続しての悪化となり6.0ポイント減少して△38.4まで低下、また、前期改善していた建設業が悪化に転じ、25.0ポイントの大幅な減少により△45.0まで低下し、マイナス幅を大きく拡大しています。

来期は、全業種において資金繰りD・Iの改善が見込まれ、製造業とサービス業においてはプラス域への到達が見込まれます。



# 製 造 業 の 推 移

## 売 上 高

<今 期>

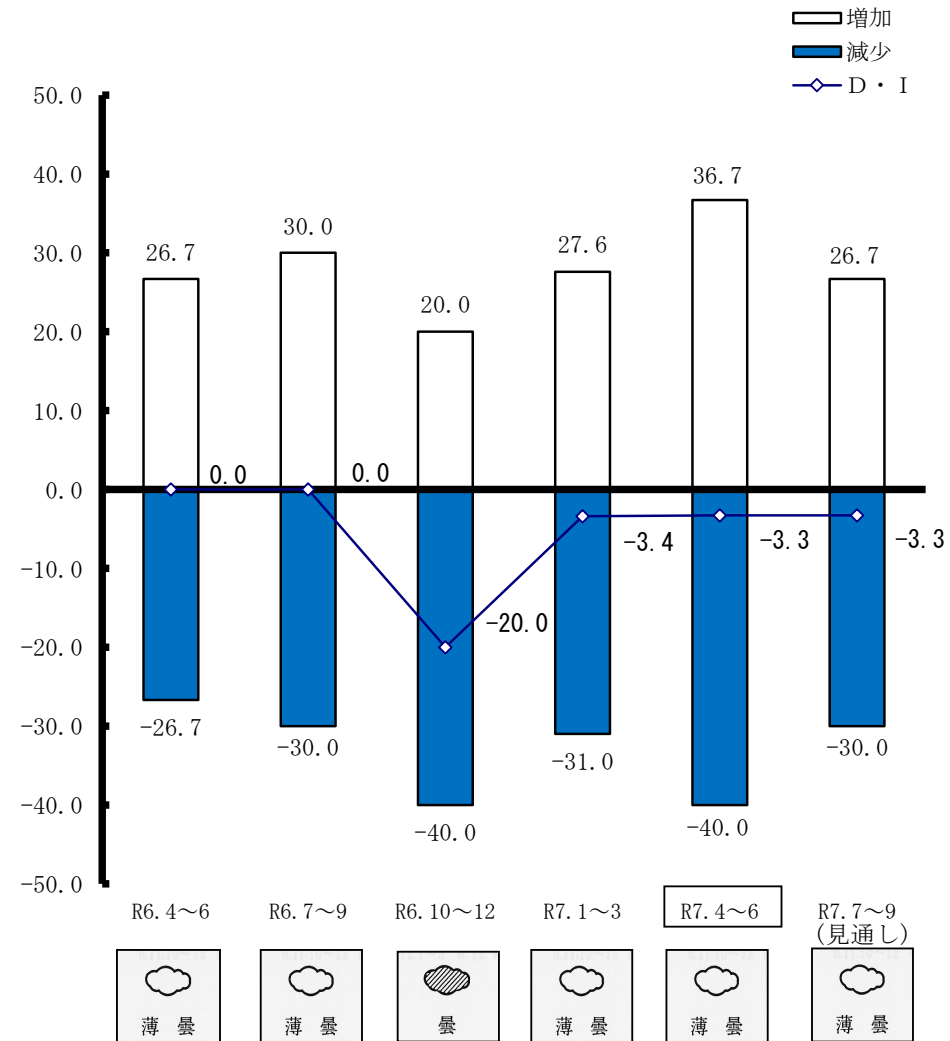


<来期見通し>

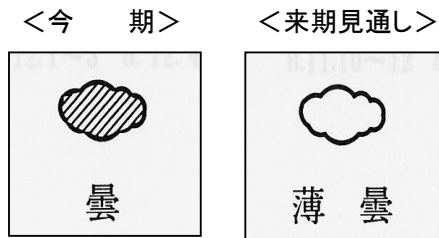


今期は、売上高増加企業の割合が9.1ポイント増加したものの、売上高減少企業の割合が9.0ポイント増加したことにより売上高D・Iは横ばいにとどまりました。マイナス幅は一桁台を維持しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合、売上高の減少を予想する企業割合がともに減少することから、売上高D・Iは今期と横ばいにとどまる見通しです。

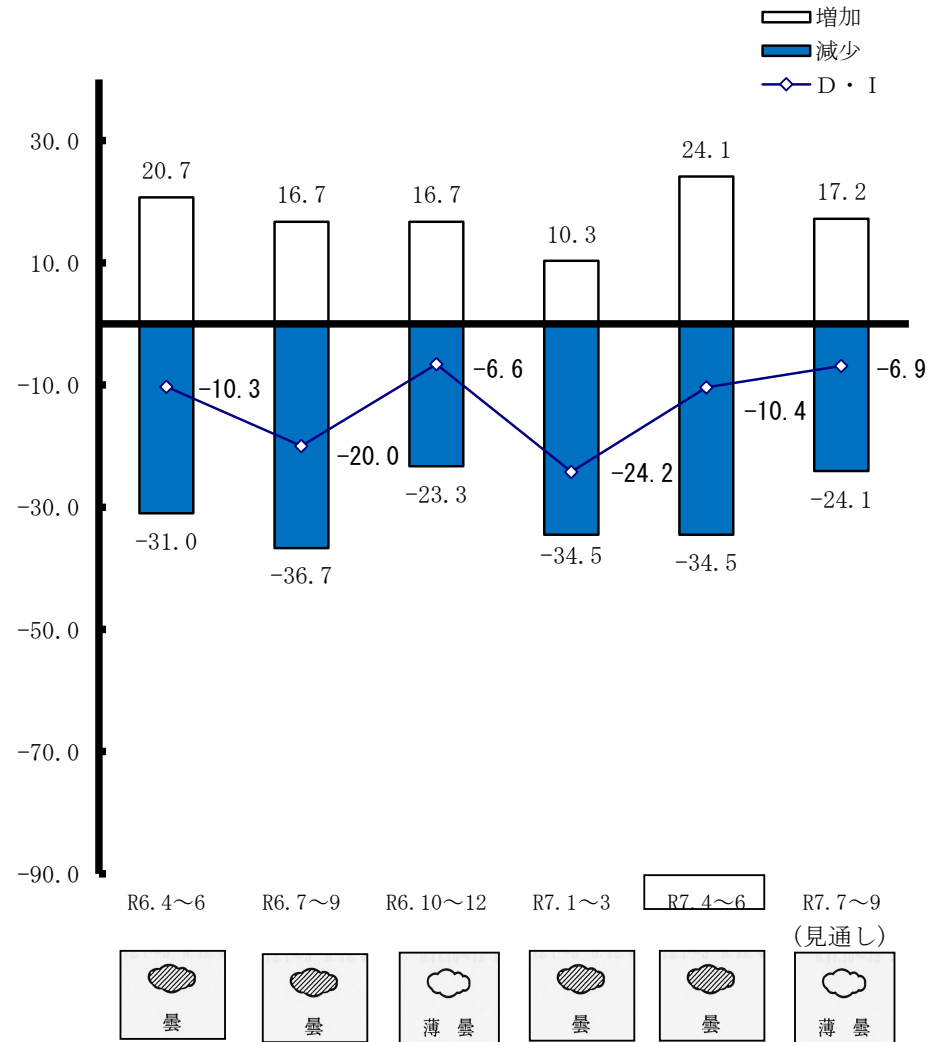


## 採算



今期は、採算が改善した企業の割合が13.8ポイント増加し、他方、採算が悪化した企業の割合は前期と同レベルにとどまったことから、採算D・Iは13.8ポイント増加して△10.4まで上昇し、マイナス幅を大きく縮小しています。

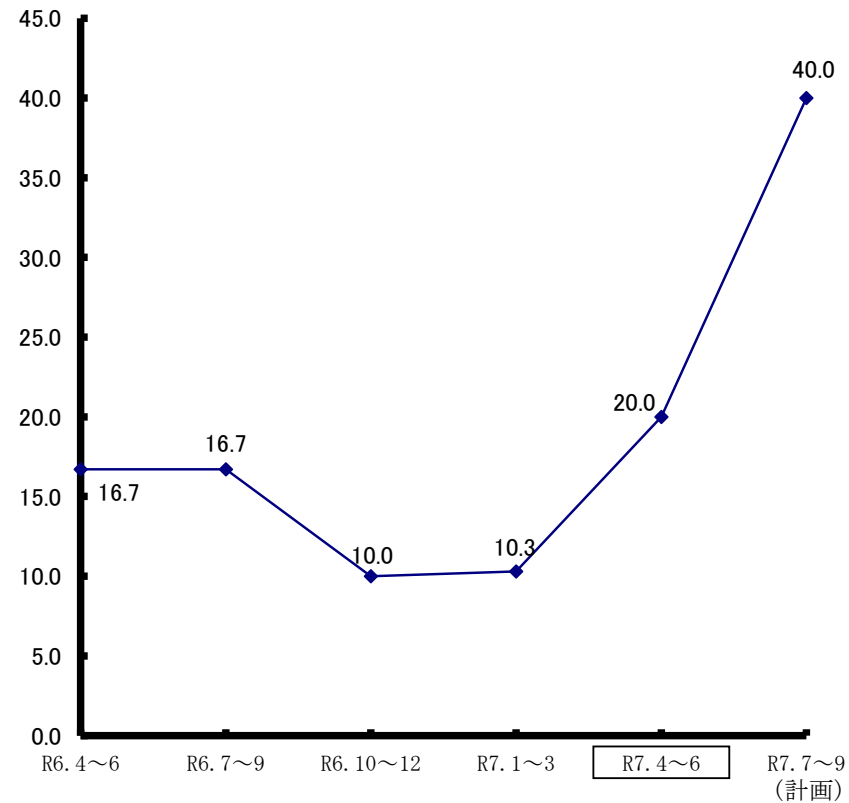
来期は、採算の改善を予想する企業が減少に転じるものの、採算の悪化を予想する企業が減少となることから、採算D・Iは引き続き改善し、マイナス幅を一桁台まで縮小し、景況天気図も曇りから薄曇りへと変化することが見込まれています。



## 設備投資

今期製造業において設備投資を実施した企業数の割合9.7ポイントの大幅な増加となり、20.0まで上昇しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合が今期に引続き大幅に増加し、40.0まで上昇することが予想されています。



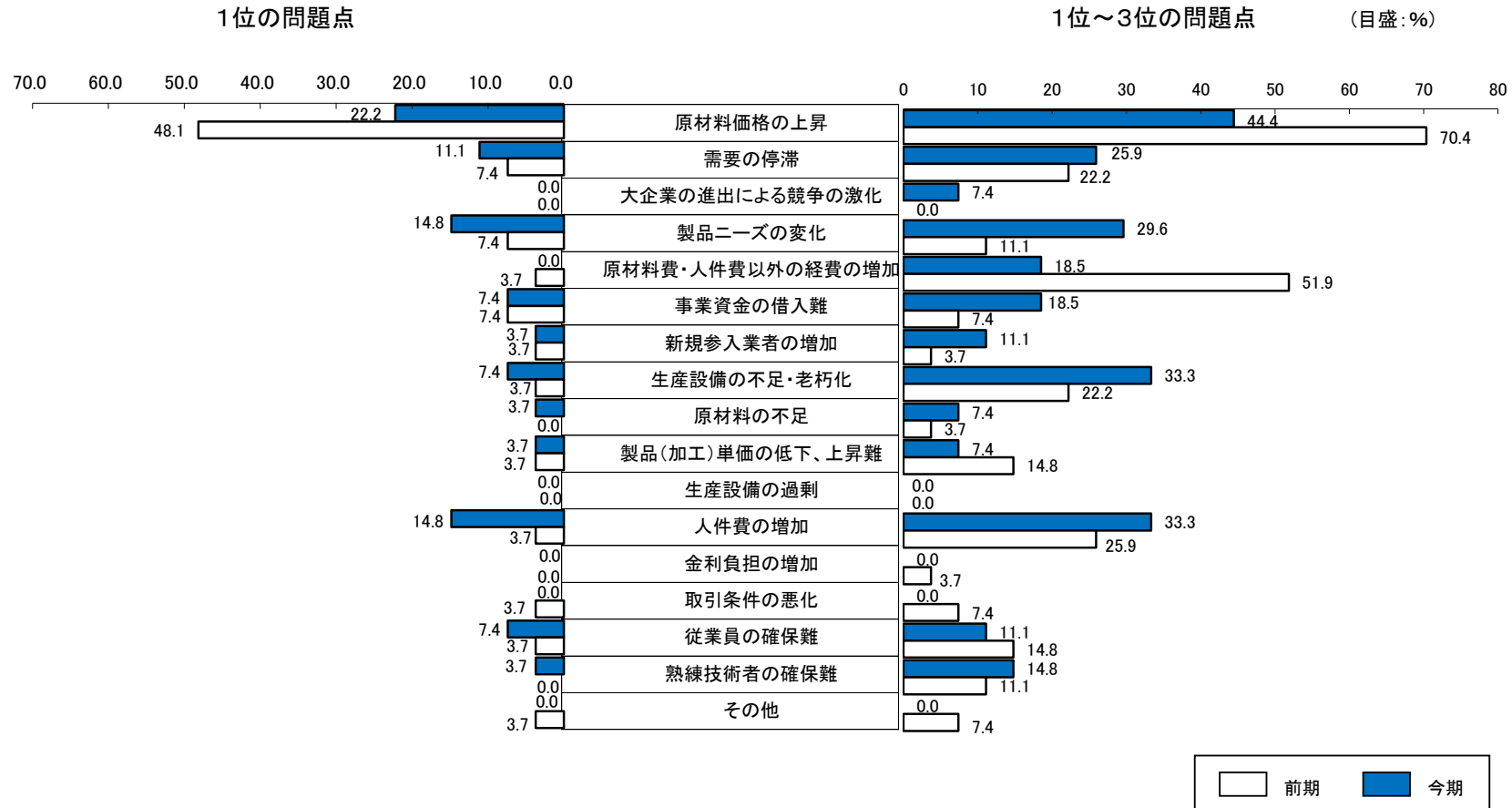
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# 製造業の推移

## 経営上の問題点

岩手県 製造業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



# 建設業の推移

## 売上高

<今 期>



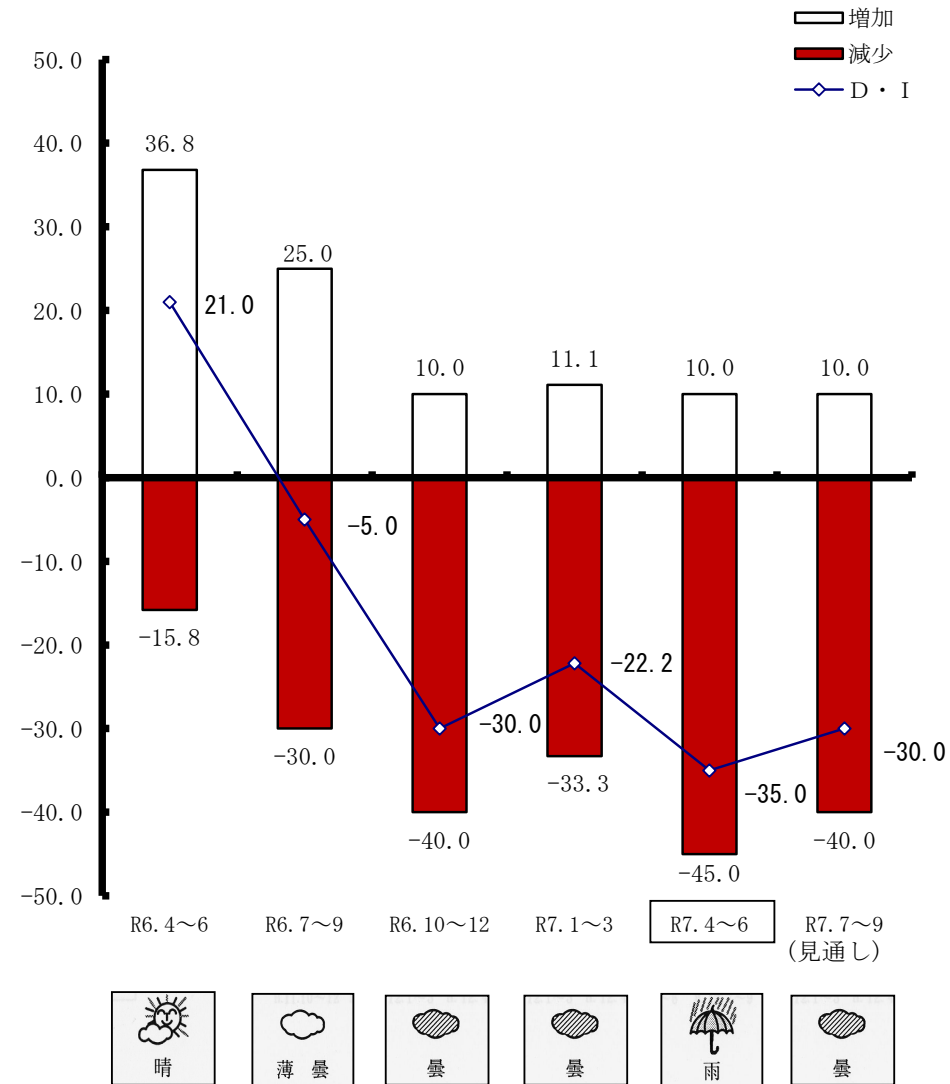
<来期見通し>



前期改善に転じていた建設業の売上高D・Iは、今期は悪化となりました。今期売上高が増加した企業割合は前期とほぼ横ばいの10.0にとどまり、他方、売上高が減少した企業割合が11.7ポイントの増加となったため、売上高D・Iは悪化に転じ、12.8ポイント減少して△35.0まで悪化しています。

来期は、売上高の増加を予想する企業の割合は今期と横ばいにとどまるものの、売上高の減少を予想する企業の割合が減少することから、売上高D・Iは改善することが予想されています。

※建設業の売上高は完成工事高



## 採算

<今 期>

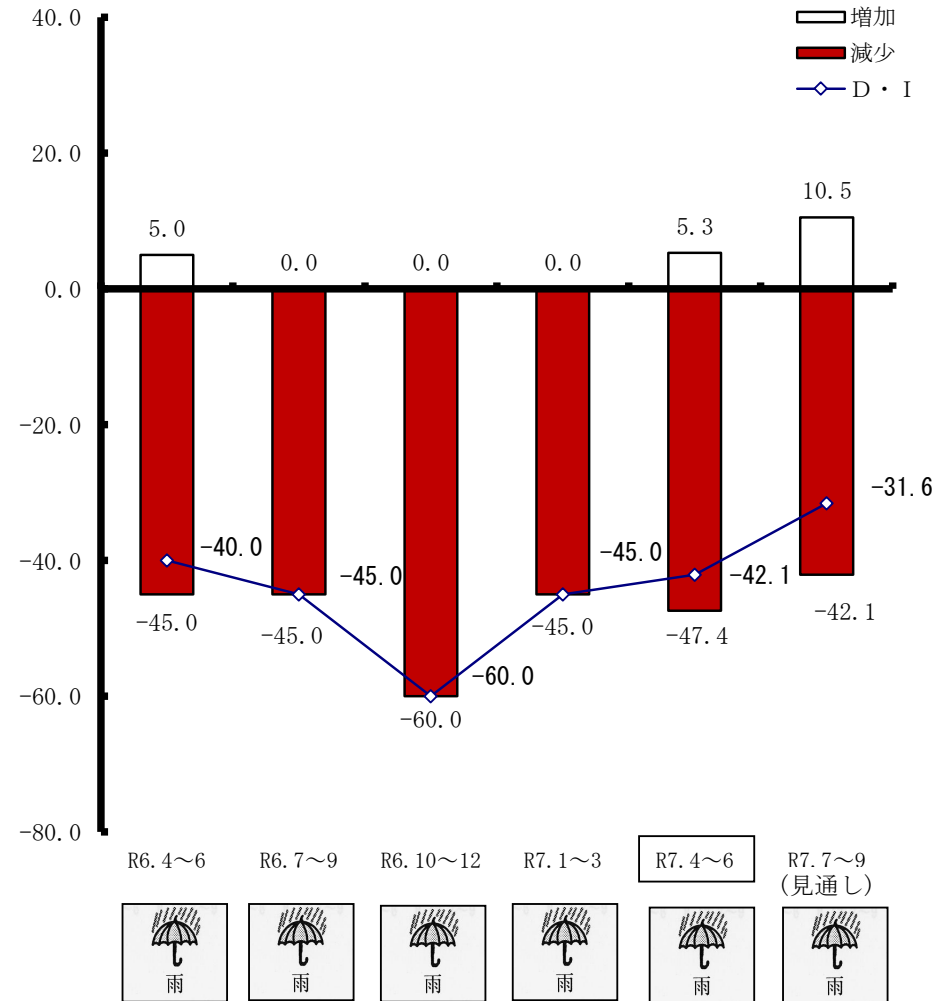


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、プラス5.3となった一方、採算の悪化を挙げた企業の割合が2.4ポイント増加にとどまったことから、採算D・Iは改善に転じ、△42.1まで改善していますが、依然として低いレベルにあります。

来期は、採算の改善を予想する企業が今期に引続いて増加し、採算の悪化を予想する企業が減少することから、採算D・Iは大幅に改善することが予想されています。

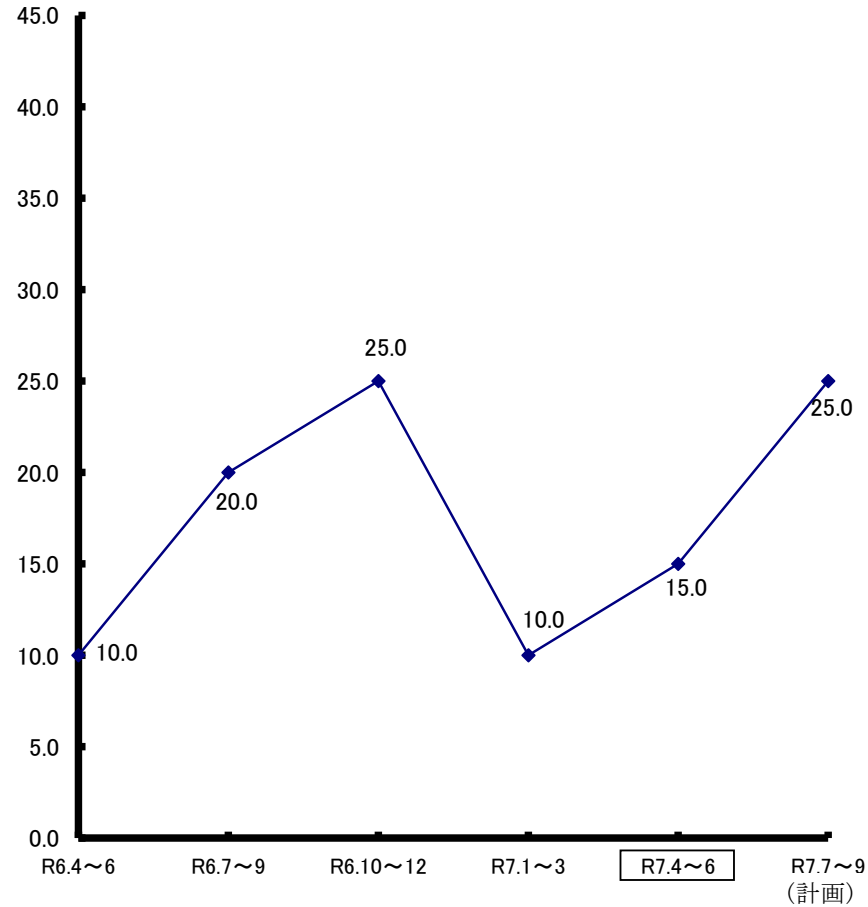


## 設備投資

建設業において設備投資を実施した企業数の割合は、前期は大きく減少しましたが、今期は増加に転じ、5.0ポイント増加して15.0まで上昇しています。

来期は設備投資を実施する企業数の割合は今期に引き続いて増加し、10.0ポイント増加して25.0程度まで上昇することが予想されます。

(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。



## 経営上の問題点

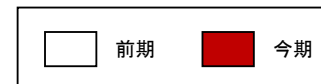
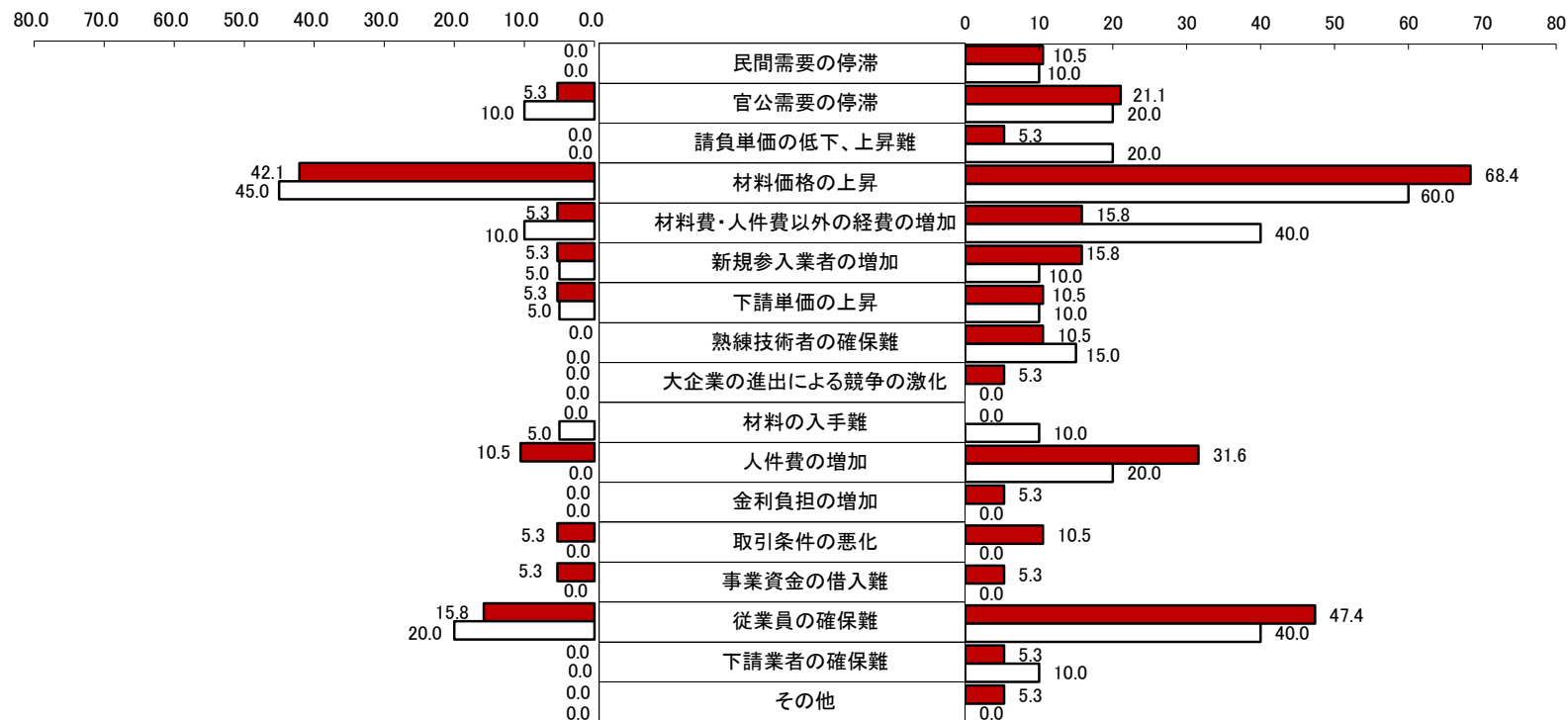
岩手県 建設業

経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)

1位の問題点

1位～3位の問題点

(目盛:%)



# 小 売 業 の 推 移

## 売 上 高

<今 期>

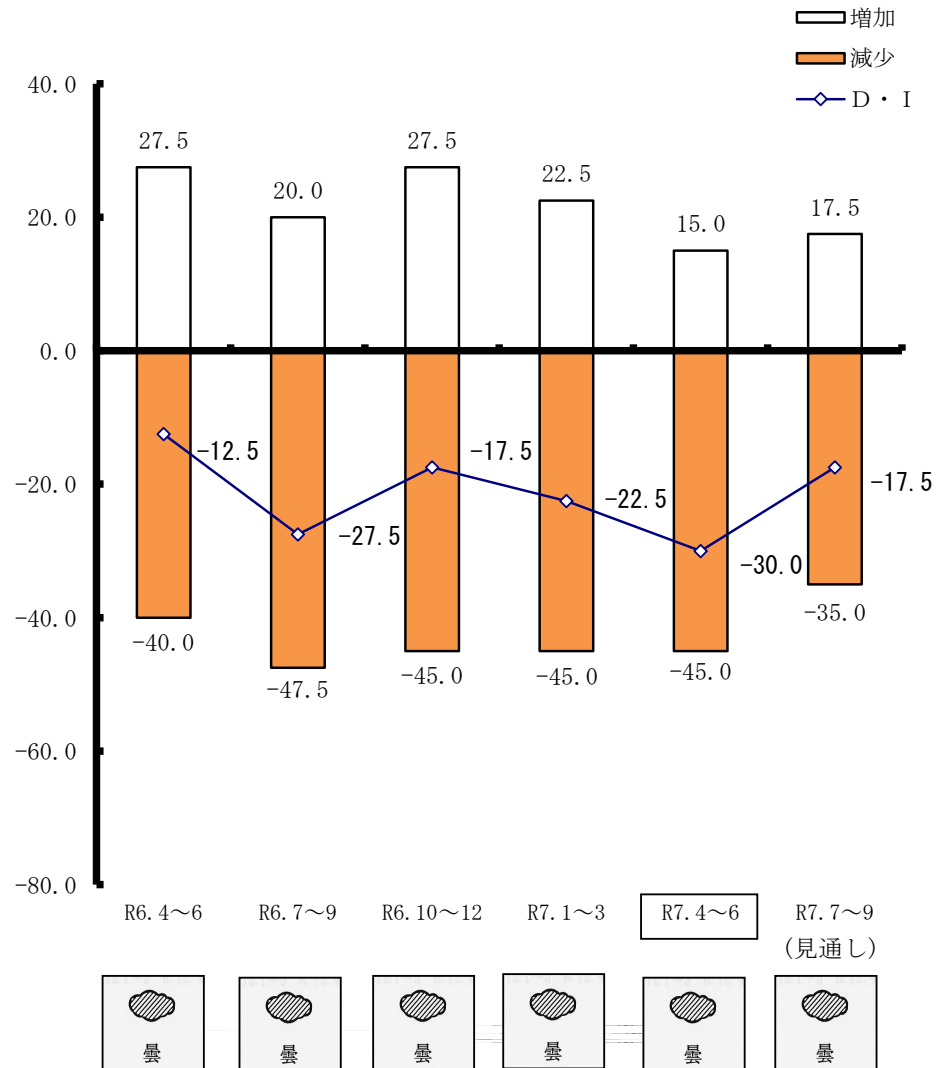


<来期見通し>



今期は、売上高増加企業の割合が7.5ポイント減少し、売上高減少企業の割合が前期と横ばいとなったことにより、売上高D・Iは7.5ポイントの減少となり△30.0まで低下しました。

来期は、売上高の増加を予想する企業割合が増加し、売上高の減少を予想する企業割合の割合も減少することから、売上高D・Iは大きく上昇する見通しです。



# 小 売 業 の 推 移

## 採 算

<今 期>

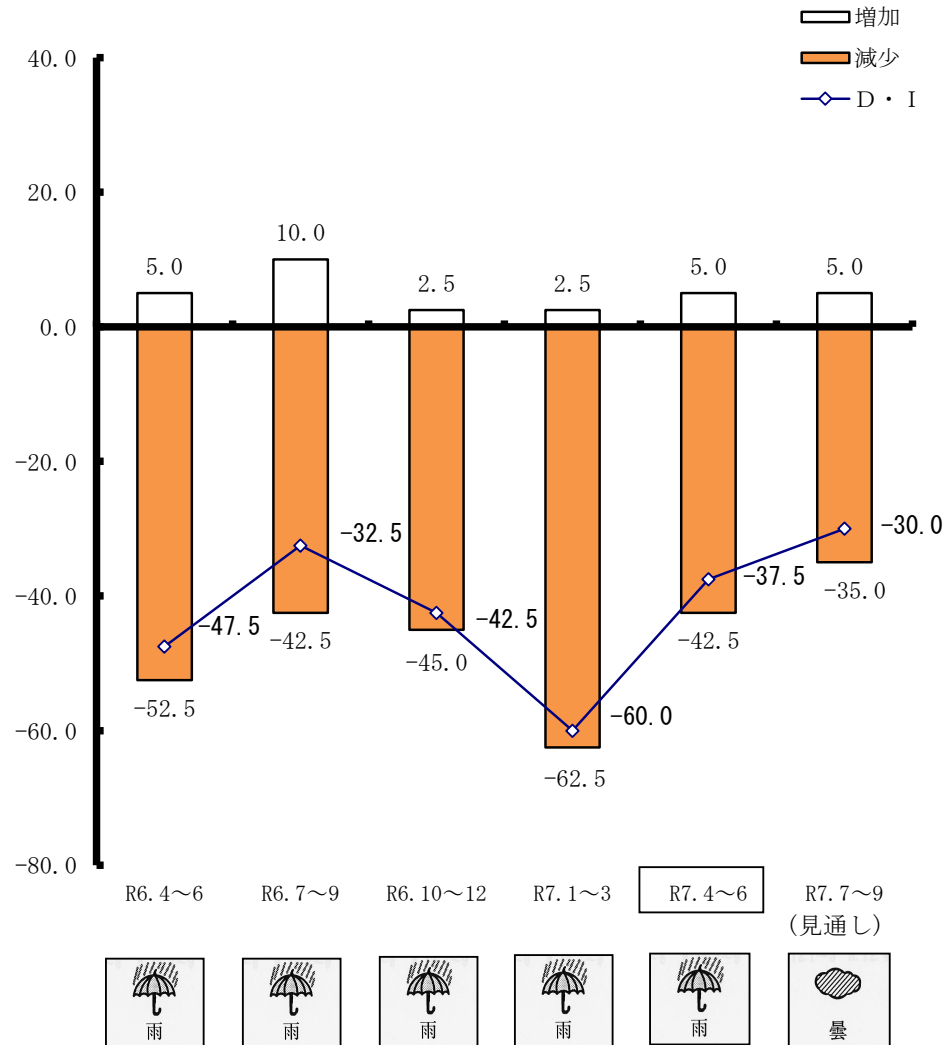


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業の割合が、2.5ポイントと小幅な増加にとどまったものの、採算が悪化した企業割合が20.0ポイント減少したことから、採算D・Iは22.5ポイント増加し、△37.5まで上昇し、マイナス幅を大幅に縮小しました。

来期は、採算の好転を予想する企業割合が今期と同じレベルにとどまるものの、採算の悪化を予想する企業割合が減少することから、採算D・Iは今期に引続き改善し、景況天気図も雨から曇へと変化する見通しです。

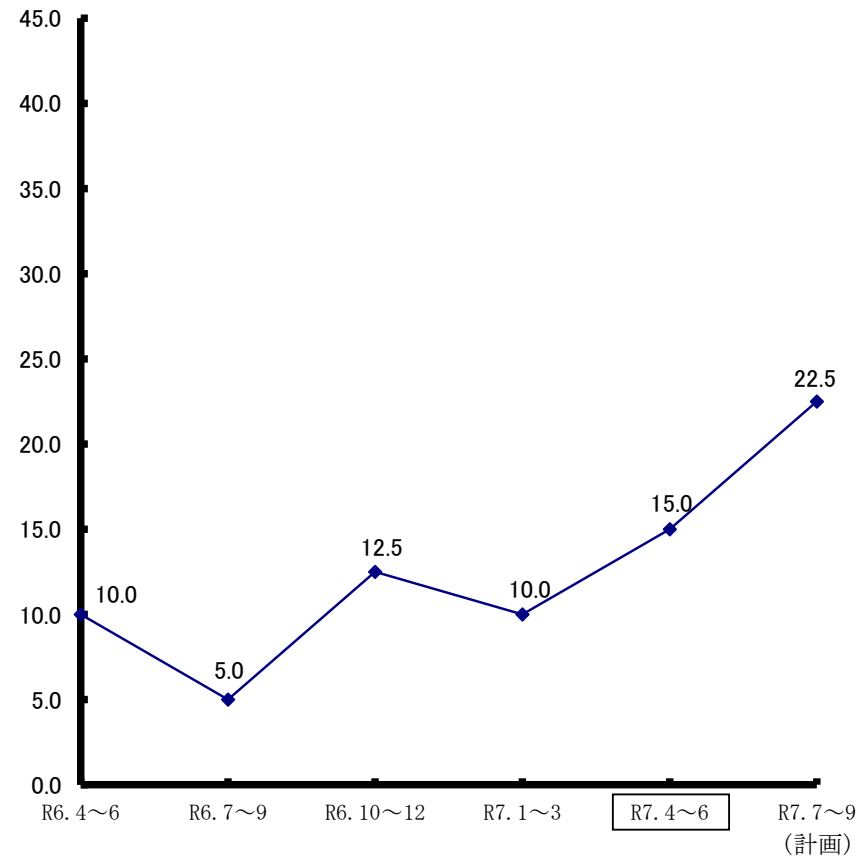


# 小売業の推移

## 設備投資

今期、小売業において設備投資を実施した企業数の割合は前期より5.0ポイント増加して15.0まで上昇しました。

来期は、設備投資を計画している企業数の割合が今期に引き続いて増加し、7.5ポイント増加し、22.5まで上昇する見通しです。



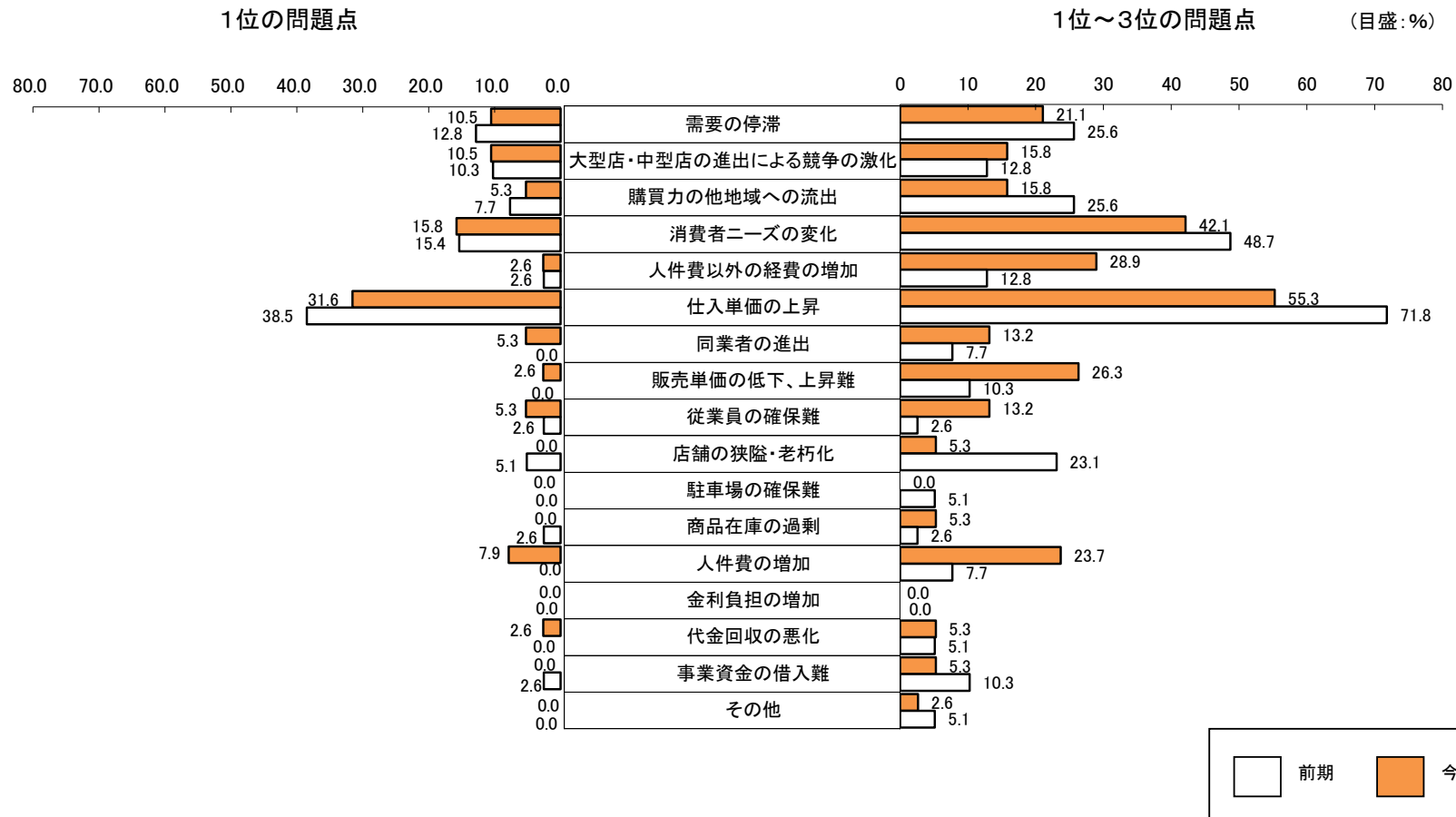
(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# 小売業の推移

## 経営上の問題点

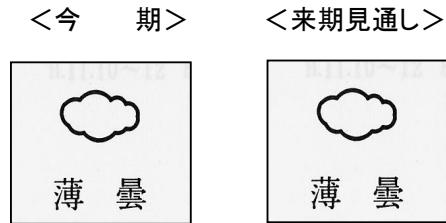
岩手県 小売業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



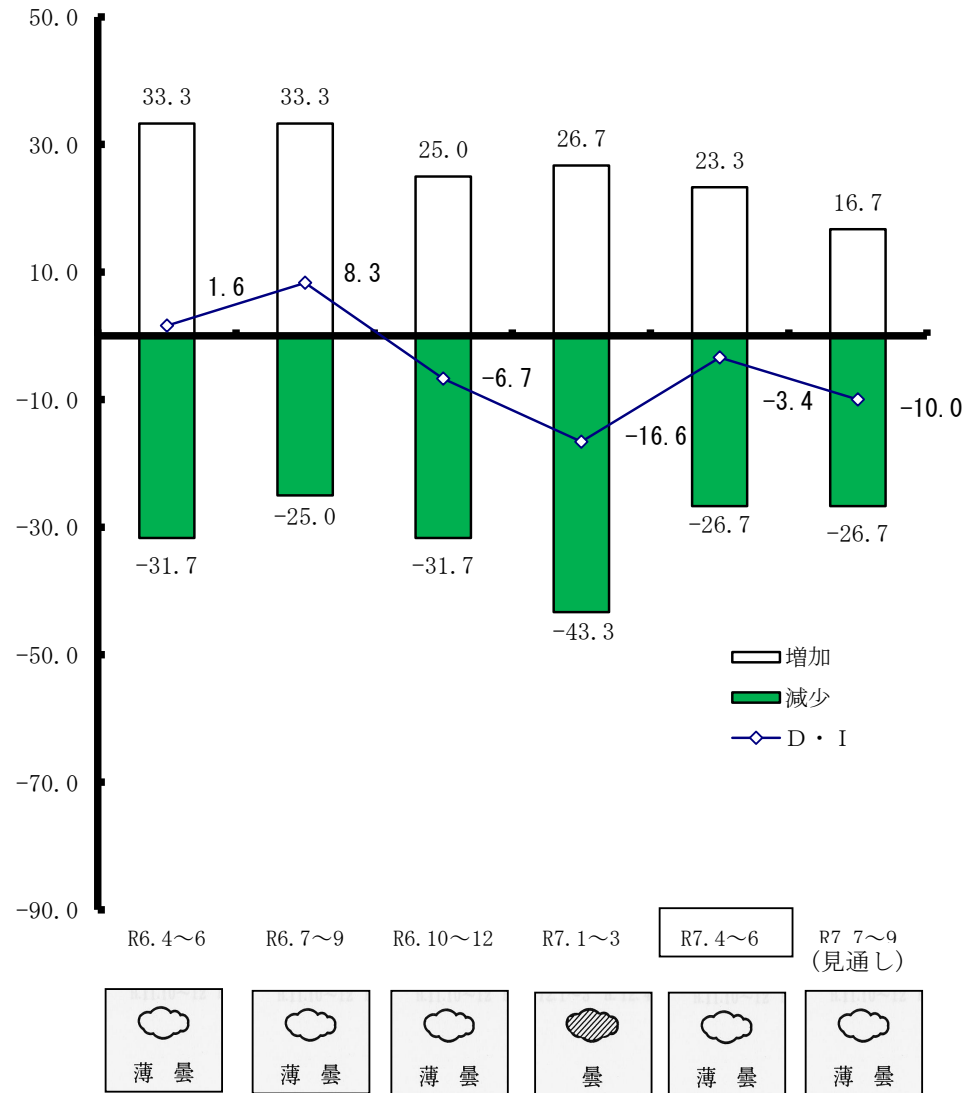
# サービス業の推移

## 売上高



今期は売上高増加企業の割合が3.4ポイント減少したものの、売上高減少企業の割合が16.6ポイント減少したことにより、売上高D・Iは13.2ポイント増加してマイナス幅を縮小し、△3.4まで改善しました。景況天気図も曇りから薄曇りへと変化しています。

来期は、売上高増加を予想する企業の割合が減少し、売上高減少を予想する企業割合が今期と同レベルにとどまることから、売上高D・Iは再びは悪化に転じることが予想されています。



# サービス業の推移

## 採算

<今 期>

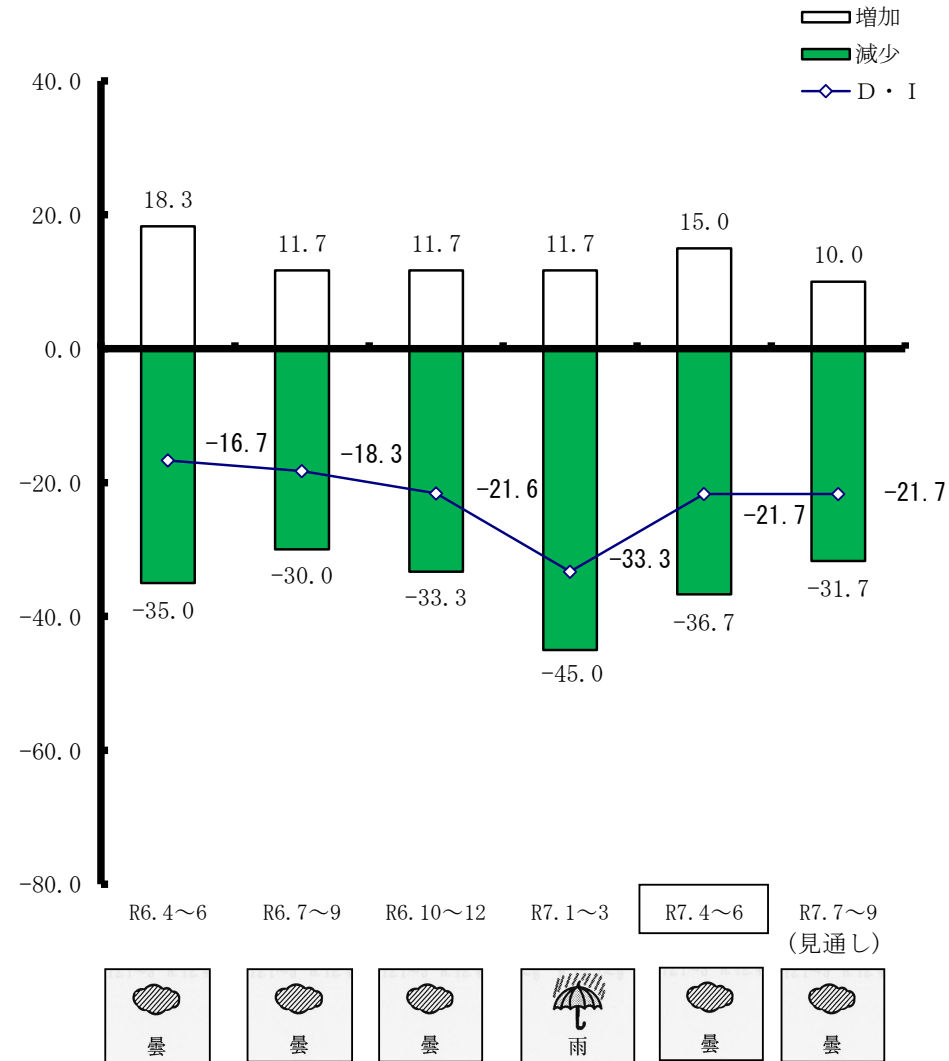


<来期見通し>



今期は、採算が改善した企業割合が3.3ポイント増加し、採算が悪化した企業割合が8.3ポイント減少したことにより、採算D・Iは造増加し、△21.7まで上昇しました。

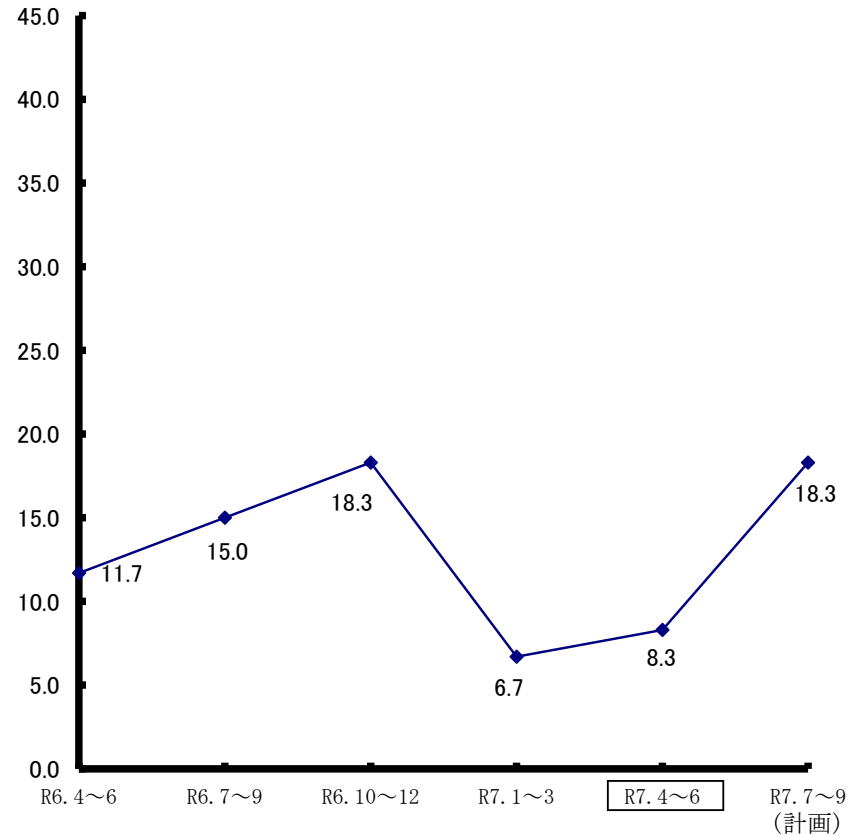
来期は、採算の改善を予想する企業割合が減少するものの、採算の悪化を予想する企業割合も減少することから、採算D・I今期と同レベルにとどまることが見込まれています。



## 設備投資

前期大幅に減少していた設備投資を実施した企業数の割合は増加に転じ、1.6ポイントと小幅ながら増加して8.3まで上昇しています。

来期は、設備投資を実施する企業数の割合は大幅に増加することが見込まれ、18.3程度まで上昇する見通しです。



(注) この指標は、規模の大小にかかわらず、設備投資を実施した企業数の割合を示します。

# サービス業の推移

## 経営上の問題点

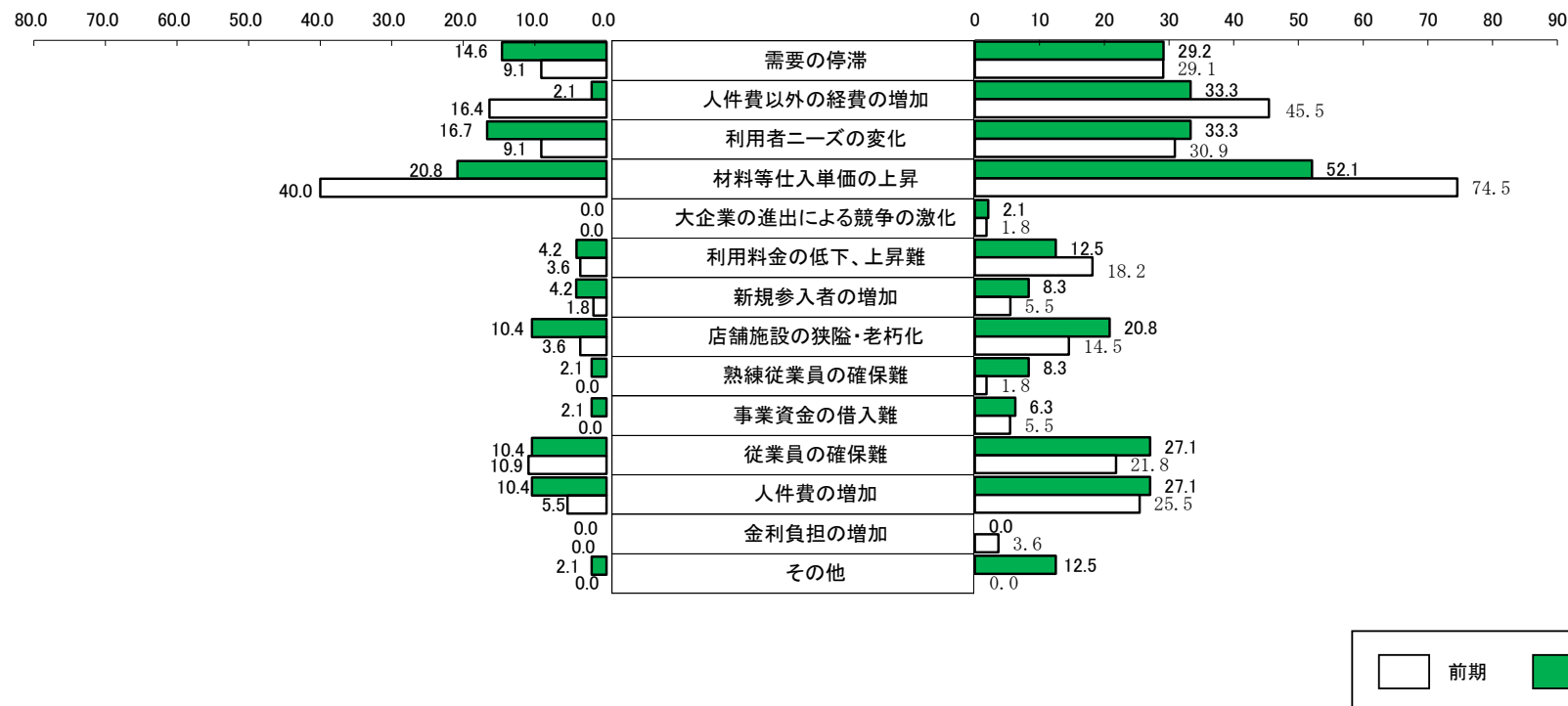
岩手県 サービス業

経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)

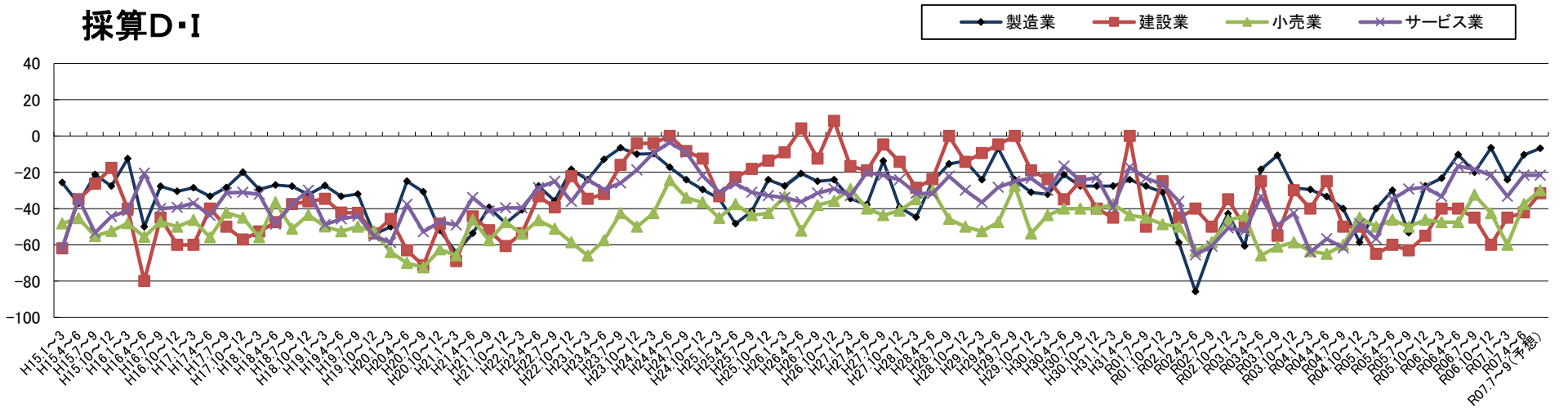
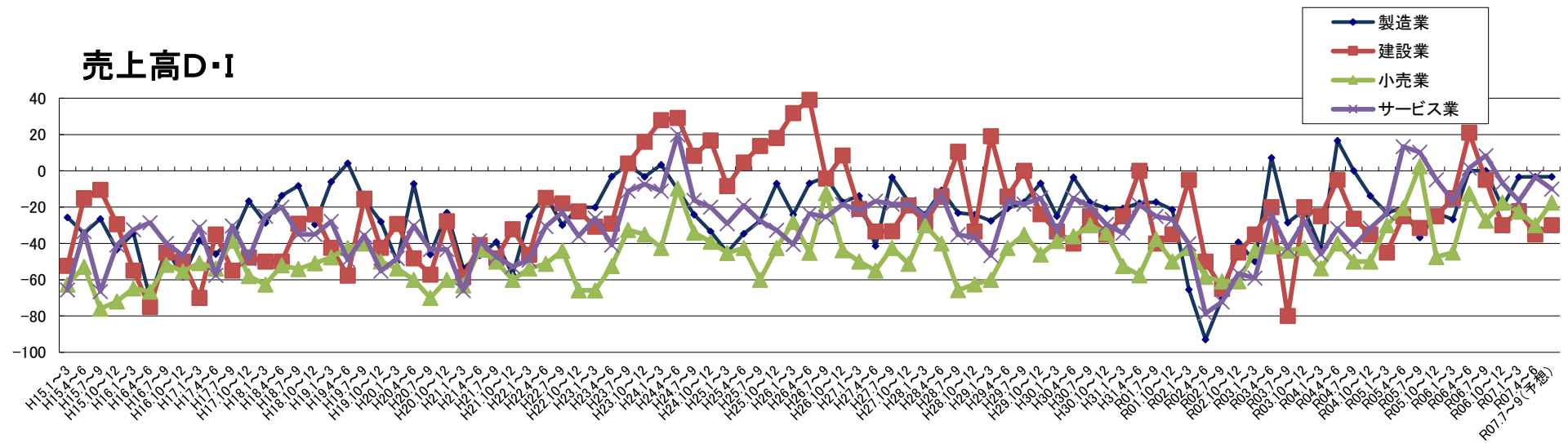
1位の問題点

1位~3位の問題点

(目盛:%)



# 全産業の過去データの推移(平成15年1月以降)



# 集 計 資 料

# 調 査 要 項

1. 調 査 対 象 (1) 対象地区 県内10商工会地区 二戸市、八幡平市、滝沢市、矢巾町、前沢  
(商工会名) 金ヶ崎町、大槌、山田町、野田村、一戸町
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業
2. 調 査 対 象 期 間 令和7年4月～6月を対象とし、調査時点は令和7年6月1日としました。
3. 調 査 方 法 (1) 商工会の経営指導員が訪問面接し、聞き取りにより行いました。  
(2) 調査対象地区の設定は、商工会地区市町村人口規模別の実態を勘案して行い、調査対象事業の抽出は、業種規模等有意選出により行いました。

## 4. 対象企業等内訳

業種	項目	対 象 企 業 数	回 答 企 業 数	回 答 率 ( % )
製造業 (地域産業)		30 ( 20.0 )	30 ( 20.0 )	100.0
建 設 業		20 ( 13.3 )	20 ( 13.3 )	100.0
小 売 業		40 ( 26.7 )	40 ( 26.7 )	100.0
サ ー ビ ス 業		60 ( 40.0 )	60 ( 40.0 )	100.0
		150 ( 100.0 )	150 ( 100.0 )	100.0

(注) カッコ内の数字は、構成比 (%) を表す。

5. そ の 他 本報告書中のD・Iとは、ディフュージョン・インデックス (景気動向指数) の略で、各調査項目についての増加 (上昇、好転、長期化) 企業割合と減少 (低下、悪化、短期化) 企業割合の差を示すものであります。